日本の農業経営についてあなたと一緒に考えたい

Paddy

【パディ】2016 冬号 vol.55

BASF
We create chemistry

健全な酪農経営を目指す
自分の経営スタイルに、
モーティブ乳剤はマッチします。

鹿児島県鹿屋市
LOOK STAR HOLSTEINS　釘田（くぎた） 武さん(55歳)

鹿児島県大隅半島の中心部に位置する鹿屋市は、
豊かで温暖な自然環境を活かした畜産業が盛んです。
今回は、この地で牧場を営む釘田武さんを訪ねました。
「健康な乳牛を育てることで、健全な酪農を目指す。」
そんな釘田さんの酪農経営に、モーティブ乳剤(以下、モーティブ)は
飼料生産の点でどのように貢献できているでしょうか。

無理をさせずに、のんびりと。牛は健康に育てることが第一。

ご家族で100頭を超えるホルスタインを飼育している釘田さん。酪農家としての腕前は全国でもトップクラスで、牛群審査で日本一に輝いたこともあるほどです。そんな父の背中を見続けてきた3人の息子さんは、酪農先進国・カナダでの実習を経験。世界のトップレベルで学んだ技術を生かしながら、地元の酪農発展のために奮闘中です。

「うちは乳を搾ることにこだわってないんです」と、釘田さん。一聞すると酪農家として相反するように感じるその言葉には、トップクラスの酪農家としての確固たる持論があります。「生産力にこだわるあまりに機械化をどんどん進め、エサを大量に与え、何度も搾っているようでは牛の寿命を短くしてしまうだけです。能力を求めすぎず、のんびりと健康に育ててやることではじめて、質の高い、安心・安全な乳を搾ることができるんです」。

そうした考えに行きついたのは、2008年に銀婚式を兼ねて奥様とカナダへ旅行した際、有名ブリーダーの牧場を視察したことがきっかけでした。「乳牛の質から大きさ、管理の仕方まで全然違いました。のんびり、のびのびと育てている光景を見た瞬間、自分が今後目指すべき方向が定まったんです」。

これまでで一番の土壌処理剤。作物にかからないから、安心。

「健康に育てることを第一に考え、安全なエサ作りにこだわっている」と、釘田さん。飼料はデントコーンとイタリアンライグラスを自家生産、栽培面積は13haを超える大規模です。雑草の種子が混ざった飼料を与えると乳の質や量に悪影響を及ぼしてしまうため、雑草の防除は欠かせないと言います。

「基本的に、牛が食べるものに除草剤はかけたくないんです。茎葉処理剤は畑の中に入って全面散布するものだから、生育中の飼料が成分を吸収して成長が遅れたり、葉が変色したり…、薬害が出る可能性はゼロではありません。そうして育ったものを牛に与えて、はたして安心・安全と言えるのか。私には疑問です」。

種まきの時点で土に薬剤をまいて雑草の発生を抑える土壌処理剤の方がはるかに安全、と釘田さんは考えます。「最初の防除で雑草を防げなかったら、その後に茎葉処理剤をまくことになる。だから土壌処理剤は非常に重要。去年からデントコーンの除草で使いはじめたモーティブは、これまで使ってきた剤の中で一番良いですよ。一度の処理で、問題雑草のほとんどを収穫までしっかり抑えてくれますからね」。

質の良いデントコーンを作るために今後もモーティブを活用していきたい、と笑顔で語ってくださいます。

鹿児島県酪農業協同組合 大隅支所
業務管理課 課長補佐(購買担当)
木戸 隆一さん(51歳)

期待できる土壌処理剤が、久々に登場しました。

「大隅管内における飼料生産体制は、夏場の2期作デントコーンと冬場のイタリアンライグラスを主体に二年中栽培されています。しかも、そのほとんどが自給飼料。良いエサ作りは、良い牛を育てるための基本です」と話してくださった木戸さん。そのためには、除草作業がポイントだとおっしゃいます。

「大規模化が進み、一軒あたりで飼う牛の数も増えてきました。日々の牛の世話で手が回らなくなってきたために、雑草が大きくなってから応急的に茎葉処理剤で対処される方も多くいらっしゃいます。作業効率は確かに良いかもしれませんが、雑草の発生は、種まきの時点からしっかり防いでおくことこそ重要。そうすれば、肥料の養分をとられることなく、より多くの収量確保も望めます」。

そのために土壌処理剤との体系防除を奨めている木戸さんに、今年から管内で導入していただいたモーティブについてお聞きしました。「モーティブは、試験段階から農家さんの評判が非常に良かった。土壌処理1回だけでデントコーンを収穫できた例も多く見られます。久々に期待できる土壌処理剤が登場しましたね」と高い評価をいただきました。

魅力ある南信州のりんご作りのために、デランは外せない一剤です。

長野県下伊那郡　鈴木農園　鈴木 健悟さん(34歳)

壮大な南アルプスと中央アルプスに挟まれた山間地、長野県南部の下伊那郡に位置する高森町。天竜川がなす河岸段丘では、特産のりんごをはじめ、梨や市田柿などが盛んに栽培されています。今回は、日本最南端のりんご栽培地域にあたるここ高森町に生まれ、生産者として新規就農した鈴木健悟さんを訪問。りんご栽培にかける想いや、デランフロアブルについてのお話をお聞きしました。(以下デラン)

南信州のりんごの美味しさを、多くの人に知ってもらいたい。

愛する地元・高森町で、やりがいのある仕事を見つけたい。その想いが強かった健悟さんは、高校卒業後に知人のりんご園を手伝ったことがきっかけで生産者になることを決意。研修を経て、21歳で農園を始めました。以来約13年、高齢で辞めていく生産者の園地を譲り受け、規模を拡大しながら、ご家族とともに園地を切り盛りしてきました。

健悟さんが手がけるりんごの品種は多種多彩。10か所に点在する約100aの園地で、8月採りのつがるを皮切りに、秋映・シナノスイート・シナノゴールドや、シナノドルチェ、サンふじなど、12月までおよそ5カ月にわたって出荷しています。

「一人でも多くの人に南信州のりんごの美味しさを知ってもらいたい」と意気込む健悟さん。都内でイベントを開催したり、SNSを活用するなど、その魅力をアピールするための活動を行っています。園地の一部を観光農園として開放し、りんご狩りに来るお客さんを受け入れているのも、そうした想いからです。

「美味しい」の一言のために、手間暇をかけ精一杯育てる。

「りんごを食べる立場から、実際に作る立場になってみて、こんなに手がかかるとは思ってもみなかった」と話すのは、お父様の一美さん。健悟さんの就農を機に、それを手伝うために、務めていた中学校教諭の職を辞めて生産者に転身しました。今では大事な戦力として、園主の健悟さんとともに日々りんご園の管理に勤しんでいます。

「りんご狩りにきてくれたお客さんが『蜜がいっぱい入ってる!』と喜んでくれて、『ありがとう』とニコニコして帰っていく。『鈴木さんちのりんごは美味しいね』と言ってもらえると、やった甲斐があるなと思います。年中やることがいっぱいあるから、退屈な老後だなんて言っているヒマはないね」と笑顔で語ってくださった一美さん。りんご作りで息子とともに汗を流し、同じ喜びを分かち合う。思いもよらずに始まった第二の人生を、心から楽しんでいらっしゃいます。

もっとも厄介な病気を防ぐために、一番信頼して使っています。

「安心・安全で、美味しいりんご作り」を目指している健悟さん。使用する農薬の有効成分数を通常の3割減に抑えた減農薬栽培にも積極的にチャレンジしています。

「りんごには色々な病害虫が出ますので、品質と収量を安定させるためには防除が必須です。なかでも5月に感染する葉の病気『褐斑病』は、一番の問題。出だしをしっかり防がないと、二次感染、三次感染と被害が広がってしまう厄介な病気なんです。その予防のメイン剤として一番信頼しているのがデランです。減農薬を目指している自分にとっては、使う農薬の数にも限りがありますので、その性能の見極めは非常に重要。褐斑病の被害がないということは、安全・安心なりんご作りにデランが役立ってくれているという何よりの証拠ですよ」。

南信州のりんごの魅力を広めるため、日々の努力を惜しまない。そんな健悟さんに、今後もデランがお役に立つことを願っています。

鈴木 一美さん(66歳)

INFORMATION webサイト、facebookで鈴木農園の情報がご覧頂けます。

webサイト
http://tablegem.shop-pro.jp/

https://www.facebook.com/SuzukiFarm.Tablegem

YUISAI ベジフルカフェ 特別編

信州飯田・幻の豚肉「千代幻豚」のグリル
太陽農場特製りんごジャムとマスタードのソース添え

natural kitchen TESSHIN

太陽農場産りんごを使った
クリームブリュレ

秋鮭と太陽農場産ズッキーニ・しめじを使った
アンチョビバターソースの自家製パスタ

natural kitchen TESSHIN
（ナチュラル キッチン テッシン）
長野県飯田市本町2-1
TEL.0265-48-0150
https://www.facebook.com/NaturalKitchenTESSHIN

読者プレゼント

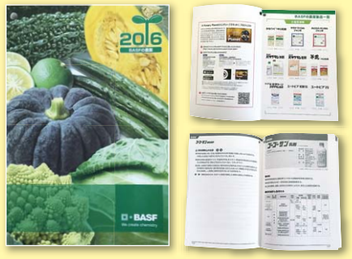
締切：平成28年2月15日（当日消印まで有効）

JAみなみ信州の「きのこセット」を5名様にプレゼント!

【セット内容】
ぶなしめじ、ホワイトブナシメジ、えのきだけ
玉白茸、ハナビラタケ、しいたけ、なめこ
※セット内容は変更することがございます。
あらかじめご了承ください。

今号のユーザーズボイスの取材先、長野県の南信州はきのこ栽培が盛んな地域です。自然豊かな森、きれいな水と空気を利用し、さらに各地区の特長を生かして様々なきのこが開発、生産されています。今では手軽で簡単に調理できる食材ですが、昔は野山でしか採れませんでした。
ここ南信州は世界で初めてぶなしめじの人工栽培を始めた、ぶなしめじ栽培発祥の地でもあります。
今回はJAみなみ信州の「きのこセット」をプレゼント。
是非、この機会にご賞味ください。ご応募お待ちしております。

『2016 BASFの農薬』をご希望の方に差し上げます!



BASFの農薬登録情報が記載されています冊子をご希望の方に差し上げます。応募は下記をご参照の上、ハガキまたはFAXでご応募ください。

■応募方法：官製ハガキに郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、職業、栽培作物、Paddyへのご意見・ご感想をお書きの上、下記宛先までご応募ください。FAXでもご応募頂けます。なお当選発表は賞品の発送をもって替えさせていただきます。 FAX番号：03-3796-9419

〒106-6121 東京都港区六本木6丁目10番1号六本木ヒルズ森タワー21階
BASFジャパン株式会社 農薬事業部 Paddyプレゼント係

※ご希望賞品名の記載をお忘れなく！
「きのこセット」または「BASFの農薬」

※個人情報は、弊社の個人情報保護規定に従い厳重に管理いたしております。第三者への開示・譲渡・貸与などは行いません。

株式会社太陽農場
YUISAI主宰
殿倉 由起子さん
（31歳）

natural kitchen
TESSHIN シェフ
宇佐美 健一さん
（46歳）

南信州の「おいしい！」を、もっともっと知っていただくことが、私の幸せです。

Paddy 49号（2014年夏号）でのご登場以来、本誌の連載コラム「YUISAIベジフルカフェ」を担当していただいている長野県飯田市の殿倉さん。農業女子としてりんご等の特産品づくりに励みながら、野菜ソムリエとして、また、りんごの発泡酒・シードルの普及を進める伝道師ポム・ド・リエゾンとして、地元の南信州をベースに長野県内から都内各所まで活躍の場を広げています。そんな彼女が培ってきた豊富な知識や経験がいかんなく発揮される旬の食材コラムには、おかげさまで毎号、好評の声が寄せられています。

そんな殿倉さんと一年半ぶりに再会するために訪れたのは、飯田の街のシンボルである『りんご並木』に店を構える natural kitchen TESSHIN。地場食材を活かしながら、生産者と共に価値のある素材を研究し、南信州の魅力を料理で表現するイタリアンレストランです。殿倉さんがご家族で営む太陽農場で採れたりんごやズッキーニ、アスパラガス、しめじなどの新鮮な食材や、「シナノゴールド」から作った特製りんごジャムも使っています。

シェフの宇佐美健一さんと殿倉さんとの親交は、野菜ソムリエユニットYUISAIのパートナー・下井泉さんと定期的に開いているレストランイベント「地の野菜を味わう会」で出会い、意気投合したことがきっかけでした。じつは、殿倉さんのコラムで毎号紹介している食材について実際に腕を振るっていただいているのも宇佐美シェフです。『誰でもできるものを、誰よりも美味しくつくりたい』を信条としている宇佐美シェフは、世間ではあまり知られていない食材や、敬遠されがちな難しい食材を上手く料理に生かすのが得意。素材の美味しさをフルコースで存分に味わうことができます。そんなシェフの腕と人柄に惚れ込んだ殿倉さんは、YUISAIで開催する野菜講座やお料理教室などでタッグを組み、地元食材のアピールに努めています。

「YUISAIの使命は、地元で採れる野菜や果物を通して人や地域を結んでいくこと」と話してくださった殿倉さん。natural kitchen TESSHINさんをはじめ地元の多くのレストランに自らが手掛けた食材を卸し、料理として広く味わってもらうこと、地元の活性化に貢献できることが何よりも嬉しい、と目を輝かせます。人との出会いを大切にし、そのつながりを上手に広げながら、バイタリティ溢れる行動力で食の喜びを発信し続けています。

鹿島神宮 祭頭祭

茨城県は鹿嶋市。武甕槌大神（たけみかづちのおおかみ）を祭神として祀る常陸の国一ノ宮・鹿島神宮は、全国の鹿島神社の総本社である。毎年3月9日に行われる祭頭祭は、年間80以上も執り行われる鹿島神宮の神事のなかで最も規模が大きく勇壮な祭りだ。五穀豊穣と天下泰平を祈る「祭頭祭」と「祭頭囃」、翌年の当番字を卜定する神事「春季祭」の三つで構成される。

文献上では、８００年を越える長い歴史を経てきた神事。明治期以前には釈迦入滅の日に行われる常楽会（涅槃会）と習合したり、あるいは、奈良・平安朝の昔に九州の防備に向かった防人の門出になぞらえて「鹿島立ち」を表した時代もあったと云う。しかし本来は、農作業の開始時季に重なることから「春の訪れを告げる祭り」として、祈年祭の意味合いが強い。

神社では午前中、前年の卜定で定まった当番字の男児が神の化身「大総督」となり、総勢数百名の氏子衆を率いて狩衣姿で昇殿。厳粛な雰囲気のなか、神前に玉串が捧げられる。

つづく午後の祭頭囃は午前とは一転、華やかな活気に包まれる。甲冑に身を包んだ大総督を先頭に立て、色鮮やかな衣装に五色の襷をかけた囃子衆の行列が門前の本陣を出発。囃子衆は6尺程の樫棒を手に、10数人で一組となって円陣を組んでは、通りのあちらこちらで囃歌をうたう。

「イヤーホエ鹿島の豊竹トホヨトヤ・・・」

あいにくの空模様のなかで行われた、平成27年度の祭頭祭。しかし、降りしきる雨も、早春の肌寒さもなんのその。囃子衆は意にも介さぬ様子で太鼓の音に合わせて囃し合い、樫棒を組んではほぐし、ほぐしては組んでを繰り返しながら勇んで練り歩く。

「イヤートホヨトヤアアヤレソラ御社楽目出度いイヤーホエ・・」

樫棒がぶつかる音と喚声は数時間にわたって続き、カメラを手にした見物客らは歓声を上げ、喧噪のなかでしきりにシャッターを切る。門前通りはあちらこちらで活気に満ち溢れ、祭りの賑わいは最高潮を迎えた。

鹿島地方に春を呼び、人々の健康や豊作を願って執り行われる祭頭祭。この勇壮で華やかな祭りを観に、一度は足を運んでいただきたい。

「パディ」はBASFジャパンが皆様とのよりよいコミュニケーションのために作成し、無料で配布している情報誌です。農業技術や農薬製品についての情報の提供や、実際に製品をお使いいただいている生産者の方々をご紹介するなど、皆様のお役に立つ内容とするよう努力を続けてまいります。

■2016年1月発行 ■編集・発行／BASFジャパン株式会社 〒106-6121 東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー21階 TEL0120-014-660 Fax.03-3796-9419 http://www.agriculture.japan.basf.com